

Development of Quality of Life Questionnaire for Patients with Parkinson's Disease Undergoing STN-DBS

川口, 美奈子

<https://hdl.handle.net/2324/4496003>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

(別紙様式2)

氏名	川口 美奈子
論文名	<i>Development of Quality of Life Questionnaire for Patients with Parkinson's Disease Undergoing STN-DBS</i>
論文調査委員	主査 九州大学 教授 鴨打 正浩 副査 九州大学 教授 中川 尚志 副査 九州大学 教授 磯部 紀子

論文審査の結果の要旨

パーキンソン病 (Parkinson's Disease、以下PD) に対するデバイス補助療法 (Device-Aided Therapy、以下DAT) では、PD特有の症状や進行に加え、治療機器による生活様式の変化などが、生活の質 (Quality of Life、以下QoL) に影響する要因となる可能性が考えられる。しかしながら治療機器の影響を包含した既存のQoL尺度は存在しない。そこで、申請者らは脳深部刺激療法 (Deep Brain Stimulation、以下DBS) 施行中のPD患者に対する半構造化面接を通して、QoLに影響を与えると考えられる発話内容を抽出し、113項目から成るQoL質問票の試案を作成した。この試案をDBS患者54名に施行し、因子分析を用いて内容の妥当性と信頼性を検討し、DAT全般への汎用性を考慮した24項目からなる疾患特異的QoL評価尺度「Parkinson's Disease QoL for Device-Aided Therapy : PDQ-DAT」を開発した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。